

ヘルスマーター

白内障について

高齢者が現役で活躍することが多い現代社会において、視力障害は様々なトラブルの原因になります。その視力障害の中でも多くの方が悩んでいる白内障についてお話しします。

白内障とは

白内障は水晶体が年齢と共に白く濁って視力が低下する病気です。水晶体とは、よくカメラのレンズに例えられますが、外からの光を集めてピントを合わせる働きを持っています。通常は透明な組織ですが、白内障ではこの水晶体が白く濁ってしまうため、見え方が悪くなります。

白内障の治療方法

白内障の治療は、初期の段階では点眼治療が基本となりますが、濁った水晶体を元に戻すことはできません。見え方を改善するには手術を行います。白内障の手術は濁った水晶体を取り除き、人工水晶体である眼内レンズを挿入する方法が一般的に行われています。手術時間はおよそ10～15分程度で、局所麻酔を行いますので手術中の痛みはほとんどありません。以前は手術の際、黒目の半周ほどの切開が必要でしたが、最近では2mm前後で手術が行えます。目にかかる負担も少なくなり、今まで以上に安心して手術を受けられるようになりました。

しかし、挿入した眼内レンズ(単焦点レンズ)には、ピント調節機能はないため、手術後もメガネ等による視力矯正が必要な場合があります。ただ最近では、遠近両用眼鏡と似た働きをもつ眼内レンズ(単焦点レンズ)があります。こちらはメガネの必要性が軽減します。ただし、この効果は全員に保証されるものではなく、夜間のライト等が見づらくなったりすることもあります。

白内障手術と一言に言っても様々ですので、一度眼科を受診し、相談することをお勧めします。